

## 4月の植物

### ジロボウエンゴサク (ケシ科)

学名 : *Corydalis decumbens*

春早く、小山の路傍にかわいい花を見つけた。名を聞くとジロボウエンゴサクと教えていただいた。二郎物語の「ジロウ」が頭にすぐに浮かびインプットした。植物の名前にはジゴクノカマノフタ (キランソウ)、ヨグソミネバリ (ミズメ)、ゲンノショウコなどユニークな名が多いがジロボウエンゴサクもその一つ。名の由来は昔伊勢地方で、本種を「次郎坊」と呼びスミレを「太郎坊」と呼び、互いに距を絡ませ引っ張りあって遊んだとある。エンゴサクは延胡索 (生薬名) でこの仲間の漢名。林中にも草原にも生える小形で無毛の多年草。葉は2回分裂する。地下に丸い塊茎がある。花は淡紅紫色で花期は4月～5月。果実は長さ20mmで種子には微細な小点がありざらつく。関東以西、四国、九州に分布し、県内では山中に普通に生える。よく似た種にヤマエンゴサク (ヤブエンゴサク) があるが福岡県や大分県などではよく見かけるが本県ではあまり見かけない。

(文 : 井手義信)



2016.4.23 蛤水道 写真枠内 : ヤマエンゴサク (猪の瀬戸)

参考 佐賀県植物目録 1981、野草の名前 (春)、野草図鑑 (すみれの巻)、花歳時記大百科